資料２

論点整理表（平成29年度業務実績・財務諸表等）

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
1	全般	質問	秋田公立美術大学の地域貢献の対象地域（秋田市以外の地域）について、どのように考えているのか伺いたい。	本学は４つの基本理念に基づく教育研究活動を通じて、地域社会の課題解決・活性化に貢献することはもとより、県内市町村のアートプロジェクトを先導するなど、広く芸術文化の発展に寄与することを目指している。
2	全般	質問	自己評価Ⅳの16項目について、「年度計画を上回って実施している」と判断するための定性的、定量的な評価の基準を教えてほしい。特に連番6、65、74、82、83、87、89、90、94、95、96、116。 当初見込んだ件数、当初見込んだ効果等とどのように比較したのか、その基準とプロセスを伺いたい。	各種展示会や演習授業の実施回数、受託事業の実績等の定量的な評価基準に基づくものは、前年度（28年度）の評価をベースとしている。 （→連番6、65、74、82、83、87、116） また、事業内容の充実度や取組の意義等の定性的な評価基準に基づくものは、学内の自己評価委員会（委員長：理事長）において、評価の考え方を整理している。 （→連番89、90、94、95、96）
3	6-1	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	年度計画に掲げた科目の開講を達成したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
4	6-1	意見	複合芸術論はＡＢＣ、複合芸術実習はＩⅡ、制作技術実習はＡ１・Ｂ１・Ｃ１と分かれているが、違いがわからないので、それぞれの内容を短くコメントしたほうが良いのではないか。	複合芸術応用論はＡがアート分野、Ｂがデザイン分野、Ｃが芸術学分野の内容をそれぞれ扱っており、大学院生は自身の研究テーマに則した分野を２科目以上履修する。 複合芸術実習はＩがアウトリサーチ型によるプロジェクトの実施、Ⅱがデザインを通じて身近な社会問題の解決を試みるプロジェクトを実施する。 制作技術実習は学部における５専攻との接続する科目となっており、専攻毎の表現手法に応じた技術習得を目的とする科目である。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
5	6-1	意見	履修した人数が記載されているが、大学院課程に何名受け容れたのか。前提となる人数を記載してもよいのではないか。	29年度入学者は10名（うち１名後期より休学）である。
6	8	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	サテライトセンターにおける制作展等を活用した新たな試みを検討したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
7	9	質問	作品展の展示について、市役所での展示の考えはないか。	秋田空港や秋田魁新報社での作品展示等を既に実施していることから、市役所内での展示についても前向きに検討してまいりたい。
8	12	意見	デッサンスクールについて、開催日について「〇～〇」ではなく、開催した日付を記載すべきではないか。	各講座の開催日は以下のとおりである。 ＜高校生講座＞ ９月30日、10月28日 ＜中学生講座＞ 10月21日、11月11日、11月23日 ＜基礎～応用講座＞ 3月17日、3月18日、3月21日
9	16-1	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	アドミッションポリシーに基づいた入学試験を実施し、10名の学生を受け入れたことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
10	16-1	意見	アドミッションポリシーに基づいた入学試験の内容を少し記載したほうが良いのではないか。	入学試験はアドミッションポリシーに掲げる「新しい芸術を探求する意欲のある人」「グローバルな視野と地域への視点を併せ持つ人」「他者と協働しながら主体的に制作や研究に取り組める人」に合致するかを判断するために、学際的なテーマに基づく論述試験や自身の研究テーマに関する面接（プレゼンテーション、口頭試問含む）を実施している。
11	20	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	大学院において年度計画に基づいた教育課程を編成したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
12	32	意見	同Ｂには「地域プロジェクト演習Ａ」のように「」（カギ括弧）を記載すべきではないか。	ご指摘のとおり修正する。
13	33	質問	美術館の年間観覧券の購入と「志願者の確保」との因果関係について伺いたい。	（ご指摘のあった）因果関係に関する調査は行っていないため、現時点では不明である。
14	33	質問	年間観覧券とは何か。また購入枚数は何枚か。配布（購入）枚数に対する利用率はどのようになっているのか。	年間観覧券とは、千秋美術館および県立美術館で開催される展覧会を何度でも観覧できる年間パスポートである。千秋美術館については、開催するすべての展覧会を、年度内何度でも観覧することができる。県立美術館については、発行日から１年間有効で、秋田県立美術館が主催、共催する展覧会を何度でも観覧することができる。 購入枚数については430枚（在学生人数分）であり、利用率については、延べ利用者数は、記載のとおり千秋美術館296名、県立美術館154名であるが、両美術館において個々の学生の利用に関しての統計はとっていないため、購入枚数に対する利用率としては把握していない。
15	38	質問	メインエントランスに面した右側の階段は一部ロープが張られて利用制限がかかっている。天井からの漏水が原因と聞いたが、学生を預かっている施設でもあるので、①万が一の避難経路等としての安全性、②木の内装への影響、③外部からの第一印象の観点から、対策が必要ではないかと思われた。天井ガラスのシーリングの補修など、原因と対策の検討状況如何。 ※昨年度も確認しているが、現在の状況を説明されたい。	平成29年度に施工した「アトリウム棟ほか外壁等改修工事」において、屋根のシーリング補修等を行った結果、当該箇所の雨漏りは解消され、階段の利用制限も解除している。
16	42	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	大学院において年度計画に基づいた設備・備品等を整備したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
17	44	質問	教員評価制度が、再任審査とリンクする教員の範囲はどのように定められているか伺いたい。	教員評価制度については、再任審査等への活用を含めて検討しているところである。また、教員評価は、助手を除く全員を対象とし、再任審査は、当該年度に任期を迎える教員を対象としている。
18	45	意見	「学生アンケートの満足度評価4.0以上」の年度計画指標の実績が「4.5」というのはⅣ評価に十分ではないか。	5.0点満点で4.0以上という目標に対し、28年度実績で4.6、29年度実績では4.5となっているが、授業によっては評価が4.0に満たないものもあることから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
19	52	意見	（展示会）開催経費の助成を拡充して欲しい。	いただいたご意見について、秋田公立美術大学後援会（助成の実施主体）役員会において報告する。
20	54	質問	①「障がい」と「障害」が混在しているので統一すること。また、②障害者は在学しているのか。	①ご指摘のとおり修正する。 ②障害者手帳を有する者は在学していない。
21	58	質問	学外作品展の助成額は約4,000円だが、どのように助成額を決めているのか。	秋田公立美術大学後援会（助成の実施主体）の助成費取扱規程において、「出展人数×１人あたり4,000円（一作品展上限　40,000円）」と規定されているものである。
22	59	質問	自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	キャリアセンターを設置したほか、学生の意見を聴取しながらキャリアラウンジの整備を達成したことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものである。
23	59 60以下	質問	キャリアセンターの設置と運営体制の整備は計画通りであり、当初見込んだより充実していたのは、その後実施した事業内容の方ではないか。	お見込みのとおりである。
24	59-1	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新項目）。 また、評価指標では、進路決定率100%の目標に対し、90.0%の実績だったが、自己評価をⅢ（年度計画を十分に実施）とした理由は何か。	キャリアセンターの教職員が積極的に企業訪問を行い、就職先の開拓ができたことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。 また、進路決定率100%は、連番59から64までの総体の評価指標として設定したものであり、本項目については年度計画を十分に実施しているとして、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
25	59-1	質問	29年度の卒業生の内、進路が決定しなかった９名は、就職希望、進学希望、その他のいずれに属していたのか？	就職希望８名、進学希望１名の計９名である。
26	59-2	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	学内における企業説明会等を積極的に開催したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
27	65	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
28	66	質問	年度計画評価指標「科研費申請数8件以上」が実績「15件」であれば、数的には「年度計画を上回って」いるがⅢの理由を伺いたい。	科研費の申請件数は増加し、評価指標をクリアしているものの、採択件数が１件であったことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。 なお、30年度は16件の申請に対し、５件が採択（1件結果待ち）されたところであり、引き続き科研費の獲得を積極的に支援していきたいと考えている。
29	67	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
30	72	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新項目）	大学院において年度計画に基づいた「複合芸術会議」を開催したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
31	72	意見	複合芸術会議の概要、参加人数、参加者の感想等を記載したほうが良いのではないか。	【概要】 「複合芸術会議2018」は、秋田公立美術大学大学院（複合芸術研究科）の研究・教育・活動の紹介に加えて、創造領域の最前線で活躍する国内外ゲストとともに「複合芸術」の可能性を現代社会の多様な視座から検討することを目的として開催した。 「複合芸術」という概念・領域が拓く創造領域の未来とはなにか、「複合芸術」に期待される社会的機能や役割とはどのようなものか、そして「複合芸術」の運動により地方と世界はどのように再接続されるのかなど、様々な視点とスケールから新しい問いを立て、聴衆を含めた参加者全員で回答を試みた。 【参加人数】 50名程度（感想等は把握していない）

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
32	79	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	サバティカル制度の導入に向けた検討を開始したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
33	79	意見	サバティカル制度の導入可否の現段階における検討結果の概要について記載したほうが良いのではないか。	本学においては、平成26年度に設定した「長期学外研究制度」が有り、制度内容がサバティカル制度と類似していることから、導入の可否について検討しているところである。
34	80	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新項目）	No.16（連番42）に同じ
35	82	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
36	83	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
37	83-1	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 （H29からの新規項目）	年度計画に基づき「NPO法人アーツセンターあきた」を設立したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
38	83-1	質問	「ＮＰＯ法人アーツセンターあきた」について説明してほしい。また、法人の役員や体制なども併せて説明して欲しい。	※別紙資料のとおり

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
39	83-1	意見	29年度は「NPO法人アーツセンターあきた」の設置準備を行う計画のところ、30年2月には設立登記を終えたと言うことであり、Ⅳ評価ができるのではないか。	設立登記については、30年度からの法人活動開始に向けた事前準備であり、年度計画どおりの取組であったことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
40	85	質問	自己評価をⅡからⅢにした理由は何か。	これまで未実施であった「知的財産の取扱いに関する基本方針」を策定したことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
41	85	意見	知的財産の取扱いに関する基本方針の概要を記載したほうが良いのではないか。	基本方針は、本学において創出された知的財産について、その保護と管理を一元的に行うとともに、地域社会における活用を促進し、地域の文化・経済の発展に寄与することを目的として策定したものであり、本方針に基づき、知的財産の権利化・収益化の推進を図ってまいりたいと考えている。
42	87	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
43	88	意見	十分に実施され自己評価のとおりⅣ評価に相当でよいと思う。	
44	93	意見	デッサンスクールについて、開催日について「〇～〇」ではなく、開催した日付を記載すべきではないか。	No.8（連番12）に同じ
45	94	質問	自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	公募展企画の事業内容を決定し、さらには30年度の実施に向けた事前準備まで実施したことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものである。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
46	95	質問	「国際交流センター」とはどのような組織なのか、活動方針を伺いたい。また、職員は視察に参加しているのか。	国際交流センターは、本学における国際交流事業を実効性のあるものとするため、国際交流事業に関する業務を一元的に担い、本学の国際化および国際交流基本方針の具現化に資することを目的として、平成29年４月に設置した。 また、29年度におけるセンター職員の視察等の実績は以下のとおりである。 【視察等の実績】 平成29年4月24日-26日 台南應用科技大学　随行者石井（教員交流・学長面談）※前年度視察済み 平成29年11月6日-10日 ウィスコンシン大学　随行者セイムス（視察） 平成29年12月9日-18日 スラバヤ国際シンポジウム　岸（視察・シンポジウム参加） 平成30年2月4日-10日 サイモン・フレーザー大学　高嶺（教員交流）※前年度視察済み 平成30年2月6日-12日 リンショピン大学　志邨、今中（視察） 平成30年2月8日-20日 バンコク大学、バンドン工科大学　岸（視察） 平成30年2月11日-22日 ハワイ大学マノア校　岩井（教員交流）※前年度視察済み
47	97	質問	「国際交流センター」とはどのような組織なのか、活動方針を伺いたい。また、職員は視察に参加しているのか。	No.46（連番95）に同じ
48	101	質問	理事会は定例で開催されるのか。	原則として、毎月第４木曜日に開催している。
49	105	質問	プロパー職員は何名在職し、市派遣職員との比率はどのようになっているのか。また、最も上の役職（職名）はなにか。	現在、事務局職員23名中プロパー職員は７名在職し、プロパー率は30.4%である。また、プロパー職員の最も上の職名は「主査」である。
50	106	質問	今年度、助手を6名採用しているが、助手のキャリアパスはどのように考えられているのか伺いたい。	助手については、研究者の流動性を重視し最長5年を超えて任用しないこととしている。在任中に業務・研究の実績を積んでいただき、他大学等（タイミングにより本学も含む）の専任教員公募への応募を推奨する仕組みであることから、本学における助手のキャリアパスはありません。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
51	110	質問	実施件数は、かなり多く見えるがⅢの理由を伺いたい。	年度計画に基づき研修実施計画の推進に努めた結果であることから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。
52	111	意見	社会貢献センターの廃止は、計画には記述がなく、計画では廃止ではなくむしろ組織基盤の整備を目指したように読める。また、社会貢献センターは、年度計画を上回って事業を実施したとの評価である。 文脈から、「NPO法人アーツセンターあきた」が社会貢献センターの機能を引き継ぐようだが、この趣旨、経緯が83-1、111、116のいずれかに記述される必要があると考える。	NPO法人アーツセンターあきたは、より機動的な地域連携活動の展開に加え、芸術発信や大学広報、産学連携、次世代育成等、地域活性化を見据えた多様な活動を展開するため、社会貢献センターを改組して、平成30年２月に設立したものである。
53	115	質問	競争的研究資金が19,808,159円とあるが、多いのか少ないのか、またこの金額について、どのように考えているのか。 「ローカルメディア」と記載があるが、具体的にどのようなメディアか。	競争的研究資金については、年度間の多寡が生じることから、一概に比較することは困難であるが、平成29年度の科研費の獲得状況は他の美術系国公立大学と比較し、やや少ない状況であると認識している。 また、「ローカルメディア」とは、地方のテレビやラジオ、ケーブルテレビ、ウェブ、地域情報紙、フリーペーパーなど、地域のコミュニケーション・ニーズを満たすことを主な機能とする情報発信媒体を指している。
54	116	意見	社会貢献センターの廃止は、計画には記述がなく、計画では廃止ではなくむしろ組織基盤の整備を目指したように読める。また、社会貢献センターは、年度計画を上回って事業を実施したとの評価である。 文脈から、「NPO法人アーツセンターあきた」が社会貢献センターの機能を引き継ぐようだが、この趣旨、経緯が83-1、111、116のいずれかに記述される必要があると考える。	No.52（連番111）に同じ

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
55	121	質問	自己評価委員会と、自己点検評価、認証評価、公立大学法人評価の関係を公立美術大学ではどのように整理しているのか伺いたい。	自己評価委員会において、各学内委員会等から提出された業務実績に対する自己評価案を作成した後、経営審議会および教育研究審議会から意見を聴取したうえで、理事会に提出し承認を得ている。各年度計画についても同様の手続きを経ていることから、学内のPDCAサイクルとして確立・機能しているものと認識している。 また、本年度は開学以来初めてとなる認証評価を受審しており、法人評価委員会からのご意見とあわせて学内で情報共有するとともに、各事項への適切な対応を図ることで、本学の教育研究活動のさらなる改善と充実に努めてまいりたいと考えている。
56	125	質問	自己評価をⅣからⅢにした理由は何か。	昨年度と比較し、学生の作品展示等の実績が減となったことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものである。

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等
57	財務諸表	質問	目的積立金の取り崩し10,762,800円は、全て有形固定資産の取得に充てられているようだが、公立美術大学のルールで、教育研究用の消耗品等の購入は認められるか、また、過去の実績はどうか。	使途が教育研究の質の向上および組織運営の改善に関するものであれば、消耗品等の購入も認められている。 【過去の実績】 27年度　大講義室灯具ＬＥＤ化更新工事、講義棟トイレ改修工事等 28年度　教育設備整備費備品購入等
58	財務諸表	質問	キャッシュフロー計算書につき、業務活動によるキャッシュフローが、前期より56,237,357円減少し、△36,220,408円とマイナスになっており、とりわけ人件費支出が前期より130,309,153円増加している。 付属明細書の「８．役員及び教職員の給与の明細」を見ると、教員が前期より２１名、職員が前期より６名増加しているため、人員の増加による人件費支出の増加であることは理解できる。 しかし、業務活動によるキャッシュフローがマイナスとなっていることは、大学の本来業務の運営の中で資金を確保することができないことを意味しており、健全な状態とは言えない。 本年度の人員の増加による人件費支出の増加が、将来における大学の発展に寄与するための先行投資である等の明確な理由があるのであれば、説明をお願いしたい。	業務活動によるキャッシュフローがマイナスとなっている要因は、会計基準上、施設費補助金収入がすべて投資活動によるキャッシュフローに計上されるのに対し、それを財源とする費用の一部が、業務活動によるキャッシュフローに計上されることによるものである。 内容としては、外壁等改修工事、照明器具ＬＥＤ化工事など約6,300万円であり、これを仮に投資活動によるキャッシュフローに移すと、業務活動によるキャッシュフローは約2,700万円のプラスとなる。 なお、人件費の増加については、大学院開設に伴う教員の増が主な要因であるが、これに伴う収入は業務活動によるキャッシュフローの中に計上されている。
59	決算報告書	質問	自己収入が「授業料、入学検定料の減」により差額（決算-予算）がマイナスとなったとあるが、なぜそのようになったのか。	自己収入のうち、入学金は予算に比べて増となったものの、休学者および減免対象者が見込みよりも多かったことによる授業料の減および受験者数が見込みよりも少なかったことによる入学検定料の減により自己収入全体で減となったものである。
60	事業報告書	意見	上記「NPO法人アーツセンターあきた」と社会貢献センターの関係について記述が望まれる。	No.52（連番111）に同じ